医療の質
~Quality Indicator~

令和元 (2019) 年 12月

大和高田市立病院

QI 委員会

はじめに

- QI (quality indicator) を用いて自院の診療の質を知り、経時的に改善することは、地域で急性期医療を担う当院にとって非常に重要です
- QI は DPC データ等を用いて容易に算出できるようになりましたが、数値を見るだけではなく、「自ら努力して改善する」ことが求められます
- 上記目的を達成するため、2019年度は、「医療の質の評価・公表等推進事業(全国自治体病院協議会)」から6項目を選択し、担当を決めて改善を進め、その結果を「医療の質」大会で報告する形式としました
- 発表部署における工夫を参考に、院内各部署で医療の質が向上し、当院の理念達成へ向かうことを期待します

2019年12月　QI 委員会・委員長　井上 直也

掲載内容

１　「医療の質」大会

2019年12月20日の発表内容を掲載

２　医療の質の評価・公表等推進事業

（全国自治体病院協議会）

2019年度　QI委員会で着目した6項目を掲載

1 「医療の質」大会

【目的】 QI (quality indicator) を用いて自院の
診療の質を知り、経時的に改善する

【日時】 令和元(2019)年 12月 20日（金）
18:10～18:45

【会場】 放射線治療棟3階　大会議室

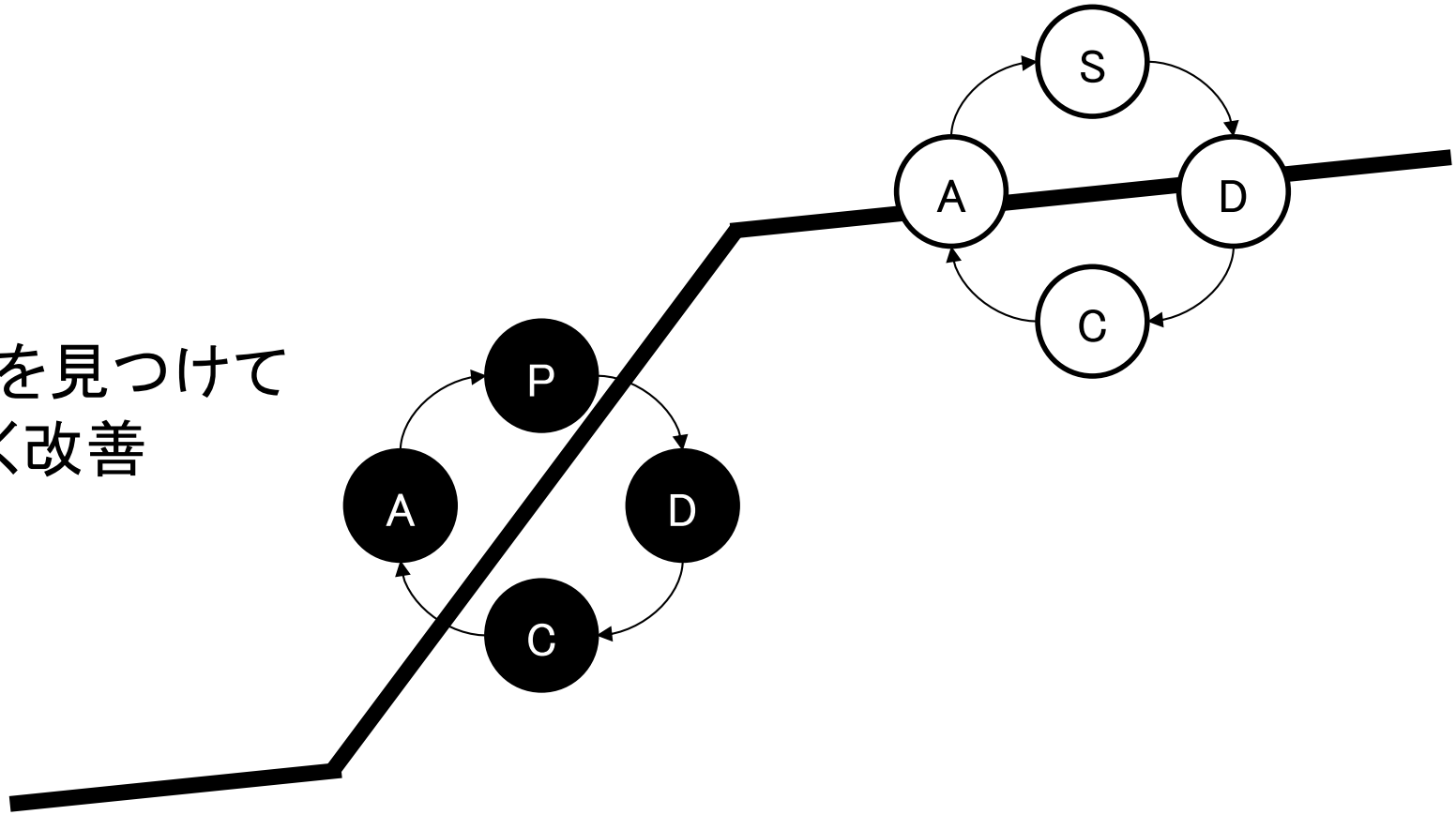
【発表】 発表4分、質疑応答3分

栄養(特食・指導)	山本友香	（栄養管理科）
転倒転落	岡本千賀子	（医療安全対策室）
手指衛生	里内正樹	（感染対策室）
摂食機能	辻本利恵	（NST）

はじめに

QI を通じて医療の質を改善

良い状態を維持しつつ、
少しずつ改善



課題を見つけて
大きく改善

“質創造”マネジメント　TQMの構築による持続的成長の実現、中部品質管理協会編、P73 図4.2 改変

各部署からの報告

医療の質向上への取り組み

・特食率改善

2019年12月20日

栄養管理科・山本友香

栄養管理科が貢献できる「医療の質」向上

特別食

- 予防･回復を促す食事の提供

↓

栄養指導

- 食事の自己管理へ導く指導

↓

患者さんの健康

栄養管理科が貢献できる「医療の質」向上

特別食

ここが低い！

↓

栄養指導

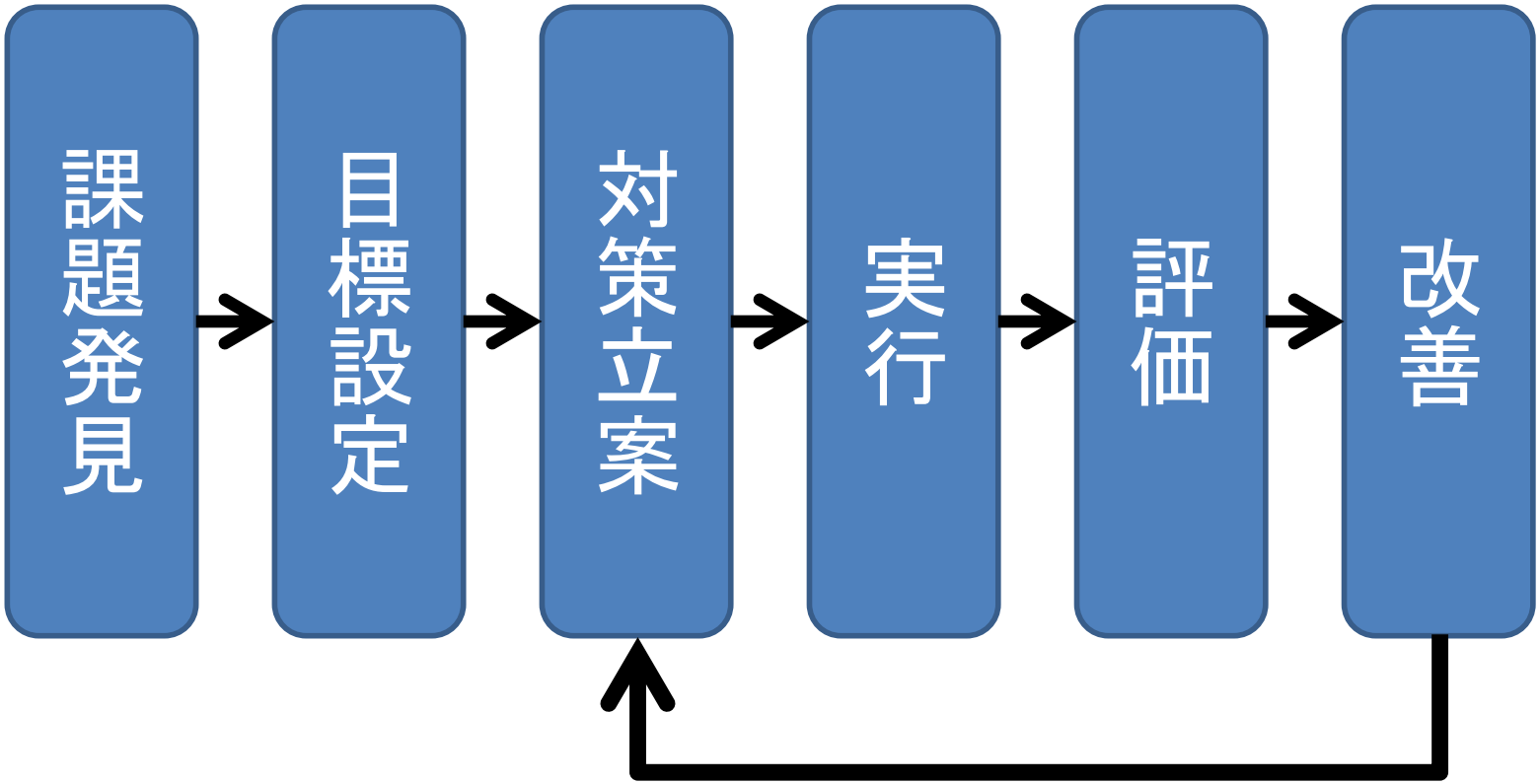
特食がでた患者さんの
80%は指導依頼あり！

↓

患者さんの健康

QI の活用

- QI として、他院の実績と比較して自院の現状を知る「ベンチマーク」という仕組みを利用

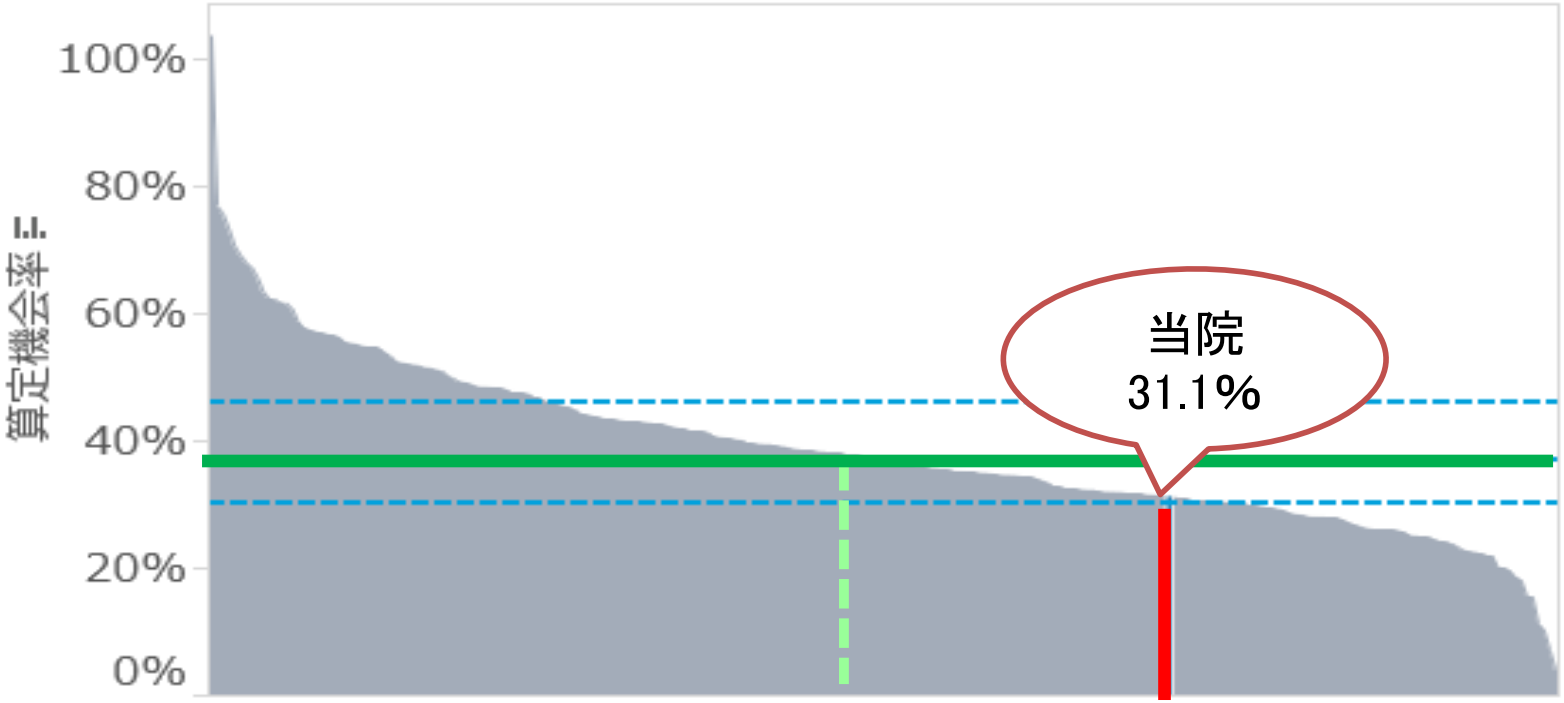


■課題発見

特食率：全国と比較して低い

特別食加算（全症例）
算定機会率ベンチマーク

自院値　31.1%　（　167位　／234病院）



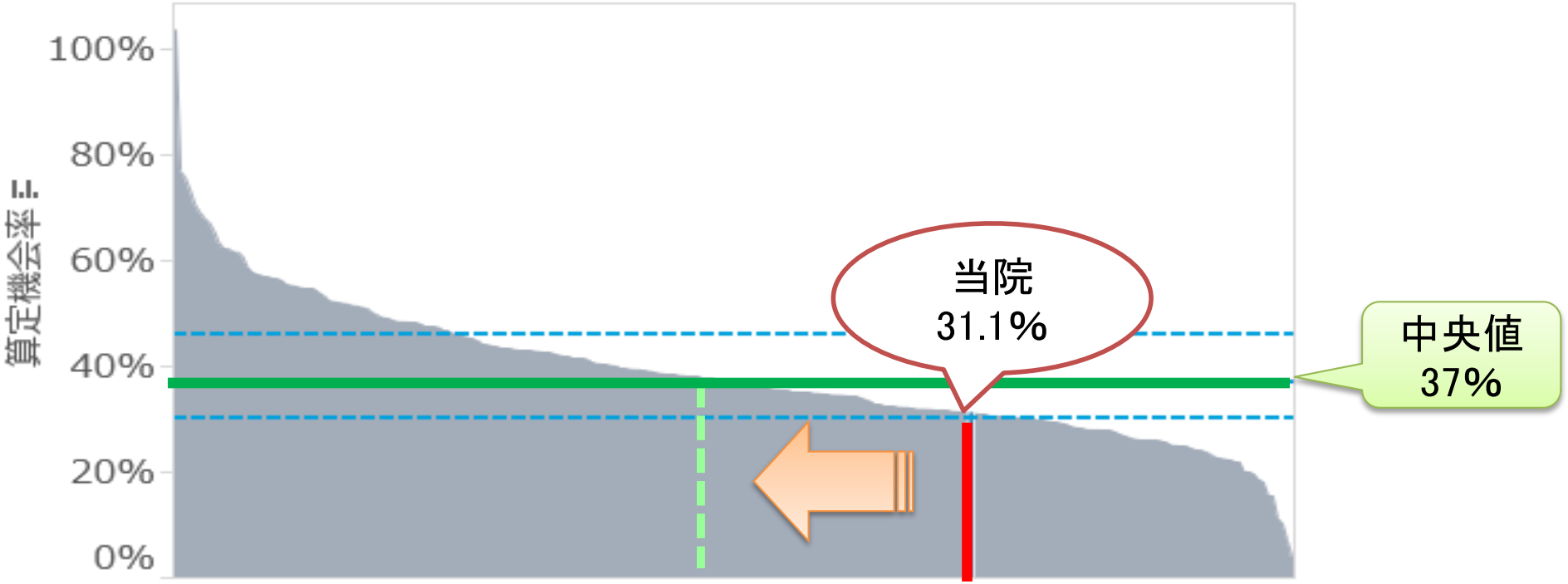
株式会社グローバルヘルスコンサルティング・ジャパン　病院ダッシュボードχ提供

■目標設定

目標を全国の「中央値　37%　」に

特別食加算（全症例）
算定機会率ベンチマーク

自院値　　31.1%　　（　167位　　／234病院）



株式会社グローバルヘルスコンサルティング・ジャパン　病院ダッシュボードχ提供

■対策立案・実行

特別食が必要な患者を見落としている？

特別食の対象となる
・病名*がある
・検査値異常がある

かつ

特別食以外の食事が
提供されている

↓

各病棟看護師長へ連絡
⇒主治医へ食事変更について確認

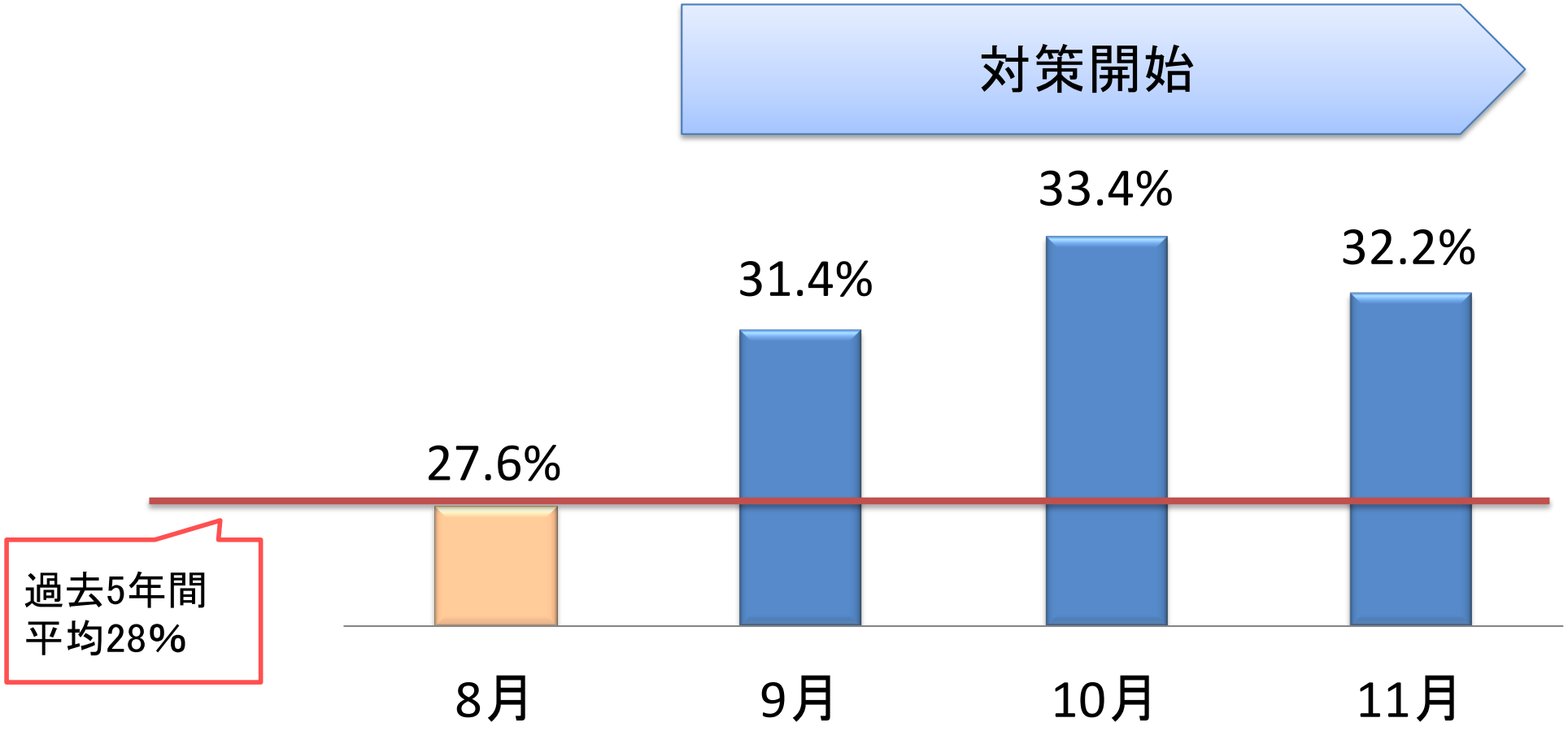
2019年9月より運用開始

*今回は、貧血・糖尿病・脂質異常食に限定

■評価

対策後は一定の効果が出てきた

特食率　月推移（直近4ヶ月）



提供した全ての特別食/提供した全ての食数（全症例の特食算定機会率）
*包括病棟含む*流動食含む

■改善・対策立案

目標の 37% 到達のために

- 管理栄養士

対象者抽出の精度向上

新たな抽出手順の模索

■改善・対策立案

目標の 37% 到達のために

- パス委員会（医師・看護師）

パスへの
「特別食」や「栄養指導」の組込み
を、お願いします

対象患者をみつけて
特別食依頼をお願いします！

対象患者

↓

特別食依頼

↓

特別食提供

↓

栄養指導

↓

患者さんの健康

メディカル
スタッフ

何食食べて
るのかな？

医師

オーダー
下さい！

ご静聴有難うございました！

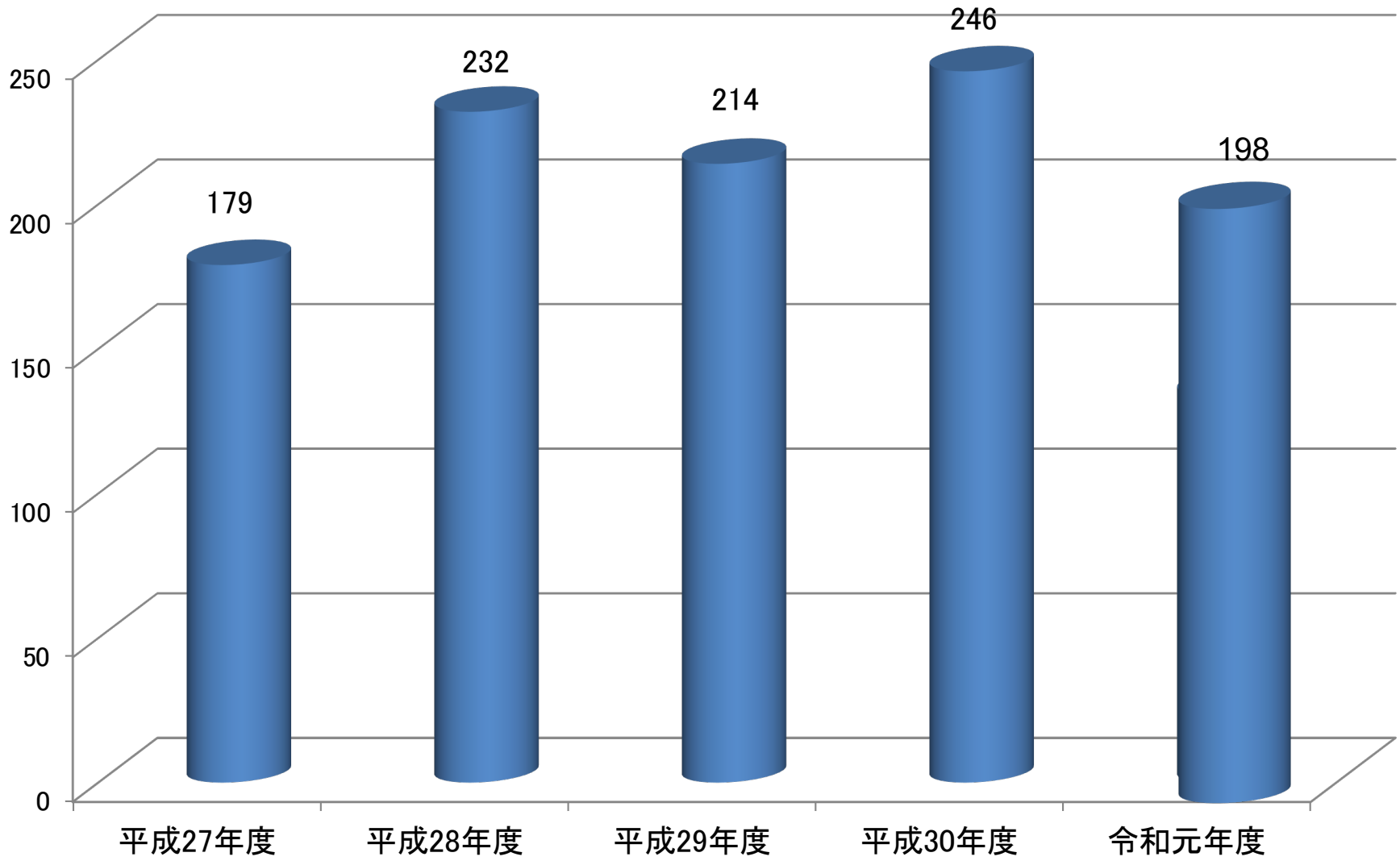
2019年度 「QI：医療の質」大会

転倒・転落

データーから見る予防対策への提言

医療安全対策室　岡本千賀子

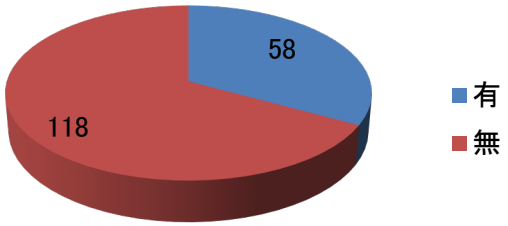
転倒転落件数　5年比較


250
200
150
100
50
0
179
232
214
246
198
平成27年度
平成28年度
平成29年度
平成30年度
令和元年度

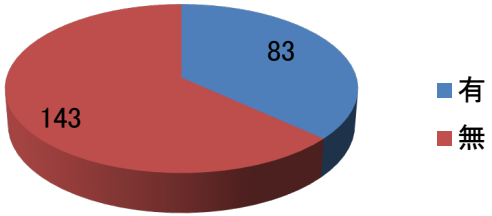
転倒転落予防対策として活用している
離床センサー
正しく活用できているでしょうか
データーからみる今後の改善策

転倒転落した患者の離床センサー使用状況

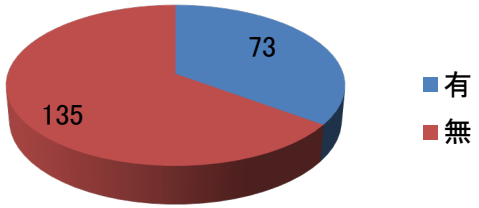
平成27年度



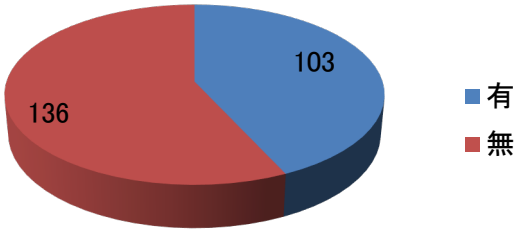
平成28年度



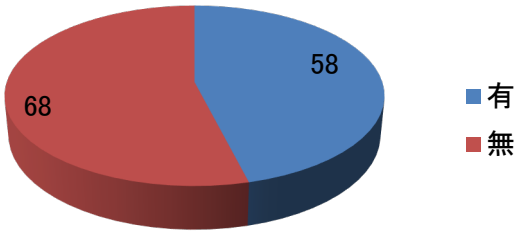
平成29年度



平成30年度



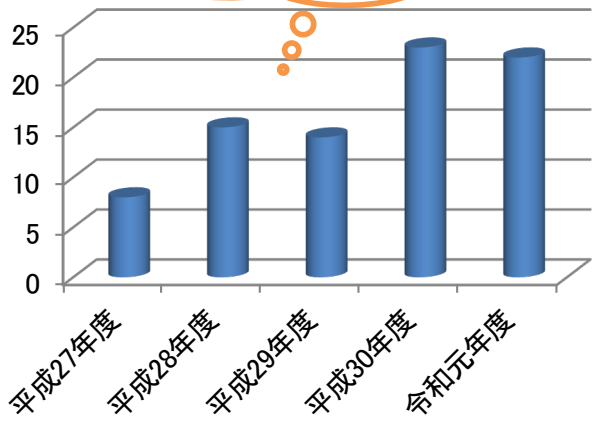
平成31年度



転倒転落事故を起こした患者さんの離床センサーを使用していた割合が、昨年度から増え始め、半数に及ぶ勢いである

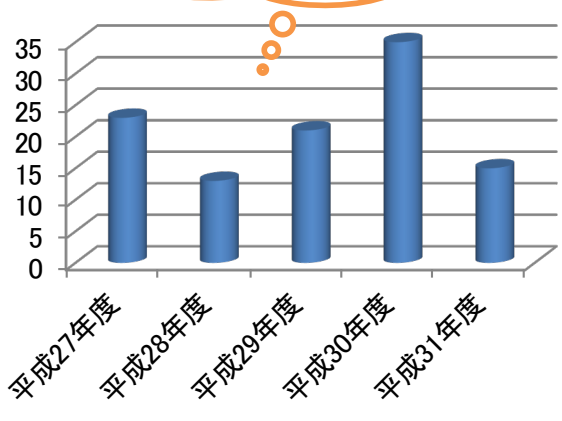
転倒転落事故発生時の離床センサーの使用状況

離床センサーの操作方法の
問題と選択の妥当性



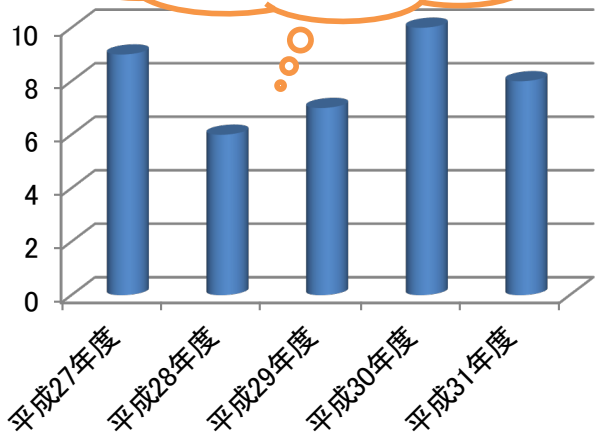
予防具が作動しなかった

ナースコールの対応方法



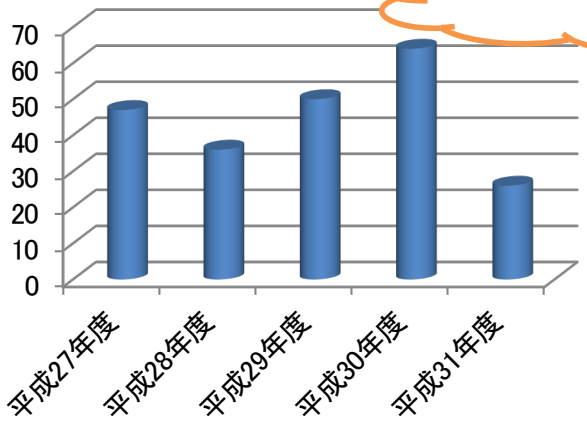
予防具を使用していたが
間に合わなかった

離床センサーの使用方法

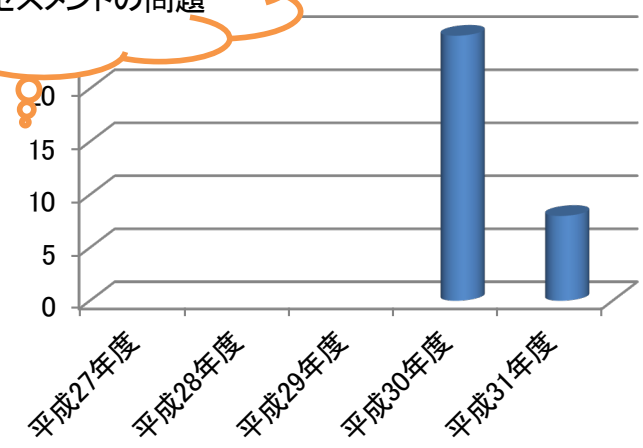


センサーをOFFにしていた

患者のアセスメントの問題



転倒転落後に離床センサーを設置



転倒転落後に離床センサーを変更

離床センサーは、医療者側ができるだけ早く、ベッドサイドにうかがえるようにするための機器です。
正しい使用方法で、必要な患者さんに使用してこそ、離床センサーの役割が果たせます。

2019年度
医療の質大会
～手指衛生～

2019年12月20日

感染対策室
里内　正樹

接触感染とは

感染経路の中の8割を占めている。
患者や患者の環境に触れることによって
微生物を他の患者へうつさないようにする

直接接触感染

皮膚と皮膚の接触
- 患者のケア中
- 患者同士の接触など

間接接触感染

患者に使用した医療器具、部屋の環境表面を介して患者へ伝播する。
- 汚染された器具
- 患者間で交換されなかった手袋
- ドアノブなど

聖路加国際病院
St. Luke's International Hospital

院内感染予防に関するお願い

1. 手指衛生

- もっとも重要な感染予防策は、手指衛生（手洗いまたは手指消毒）です。
- 当院では、すべての職員へ患者さんに触れる前と後に、手指衛生を行うことを義務付けています。職員の手指衛生が不十分と思われる場合は、遠慮なくご指摘ください。
- 患者および付添いの方々も、以下の要領で手指衛生へのご協力をお願いいたします。

手指衛生を行うタイミング

- トイレの後
- くしゃみを手で押さえた後

実施した取り組み

これまでの取り組み
・アルコールフリーの手指消毒剤の採用
・手指消毒剤使用回数の報告

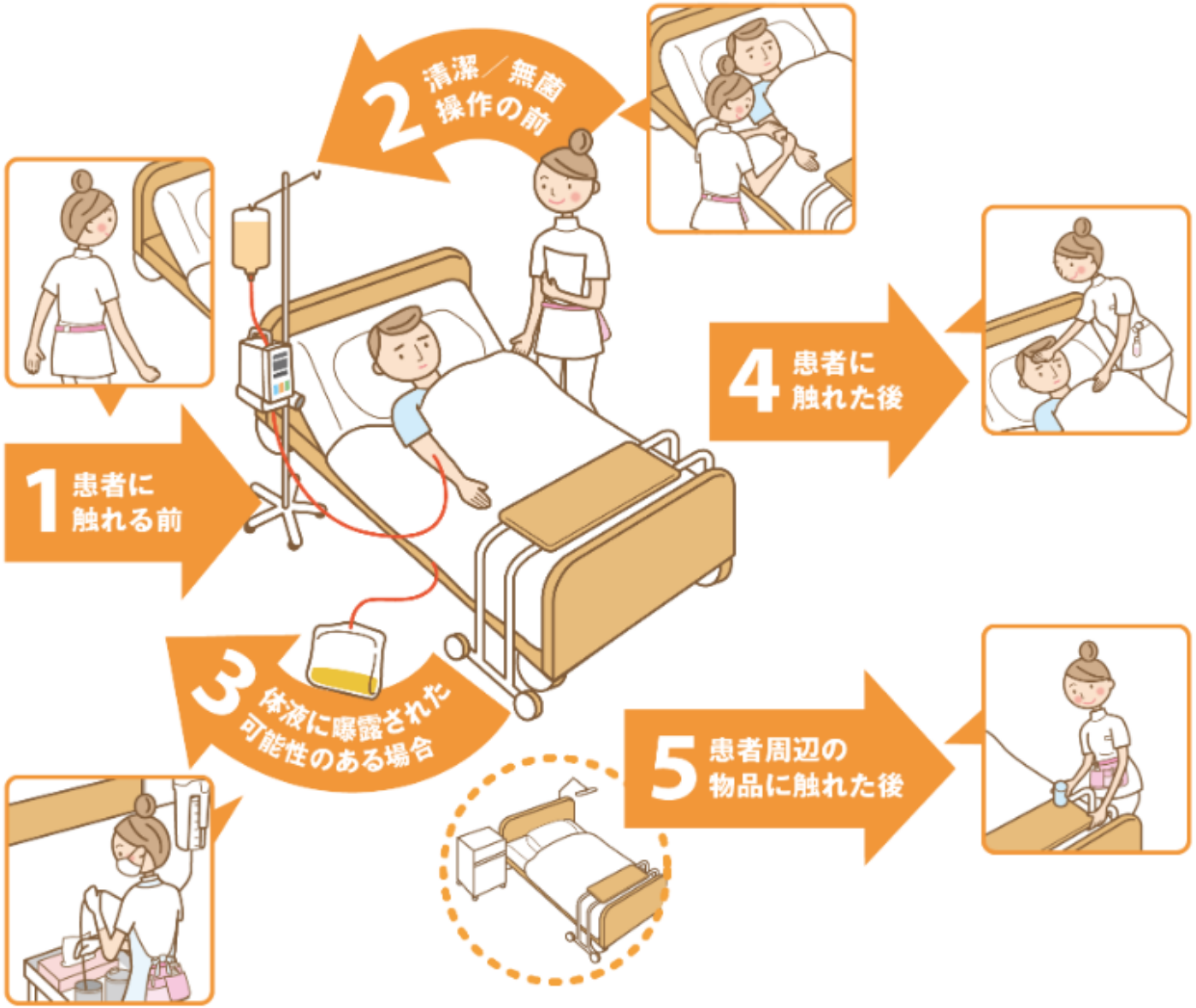
今年度の取り組み
・看護局リンクナース委員会の目標とする
　スタッフ1人あたり3本/月以上使用する
（2019年3月の約４～5倍）

・手指消毒剤の個人携帯を必須とする（2019年6月）

・各部署でリンクナースによる勉強会の実施

・直接観察による場面別評価

WHO　手指衛生５つの瞬間



WHO 'My 5 Moments for Hand Hygiene'より改変
URL : http://www.who.int/gpsc/5may/background/5moments/en/index.html
© World Health Organization 2009. All rights reserved.
Illustrated by SARAYA CO.,LTD.

ま　と　め

- 「手指衛生５つの瞬間」がどの場面が浸透していない
- 清潔/無菌操作への意識が低いことがわかった
- 手袋をしていると手指衛生をしていない事が多い

今後の課題

- 「手指衛生５つの瞬間」をイメージしやすいような周知方法が必要
- 必要に応じて手指衛生のタイミングもマニュアルに掲載していく（個人防護具の着脱タイミングを含めて）

摂食機能療法算定に向けての取り組み

～医療の質をふまえた介入～

５A病棟　　辻本利恵

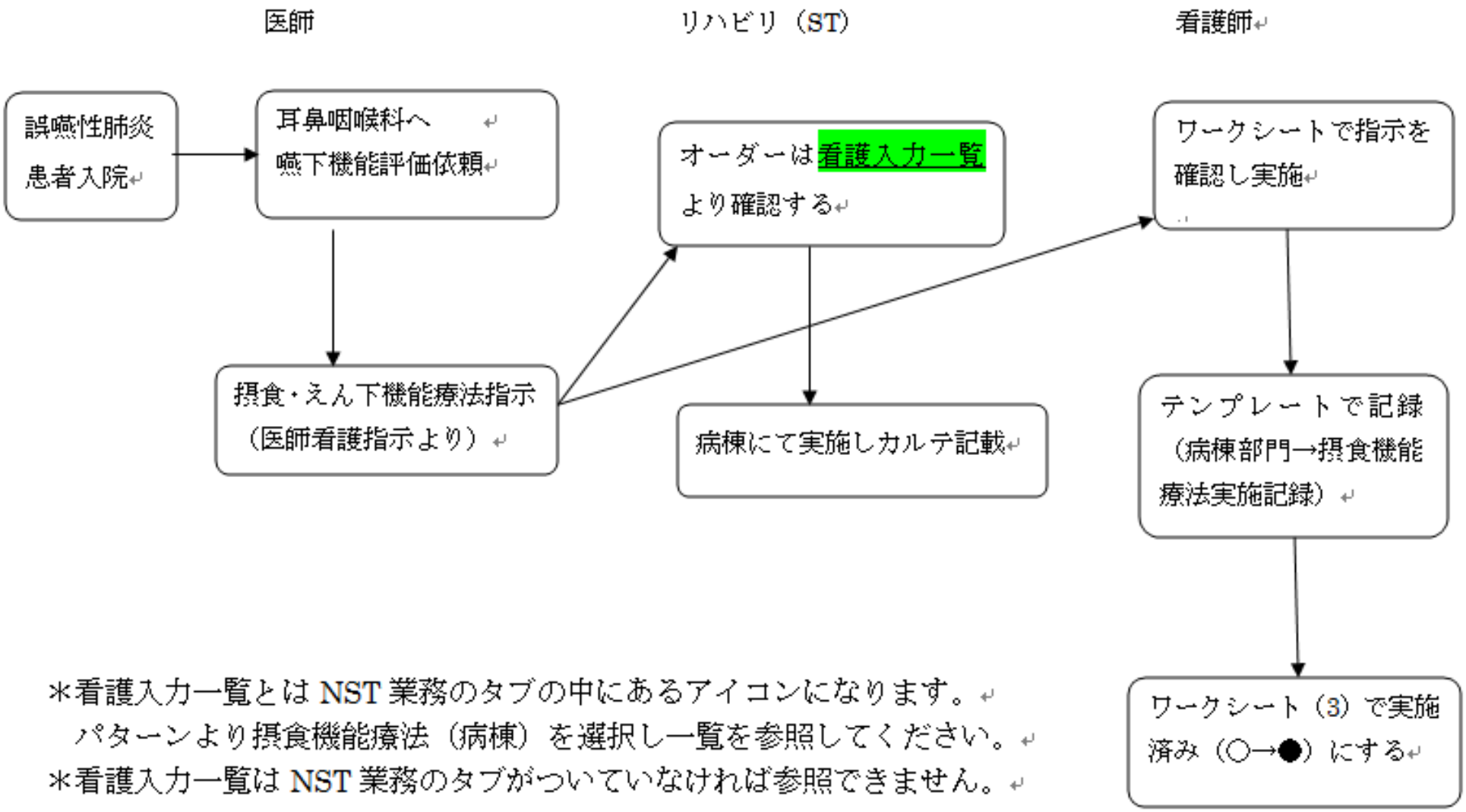
看護師の摂食機能療法介入の取り組み

- リハビリテーション科医師の介入、STへ指示方法、運用を検討する
- 摂食機能療法算定基準の再確認
- 嚥下機能評価や訓練実施等、運用上の役割分担の明確化
- 体制を整備し院内に周知し、他職種連携をはかる
- 医療の質として誤嚥性肺炎患者へのアプローチ

摂食機能療法（一日につき）30分以上の場合：185点

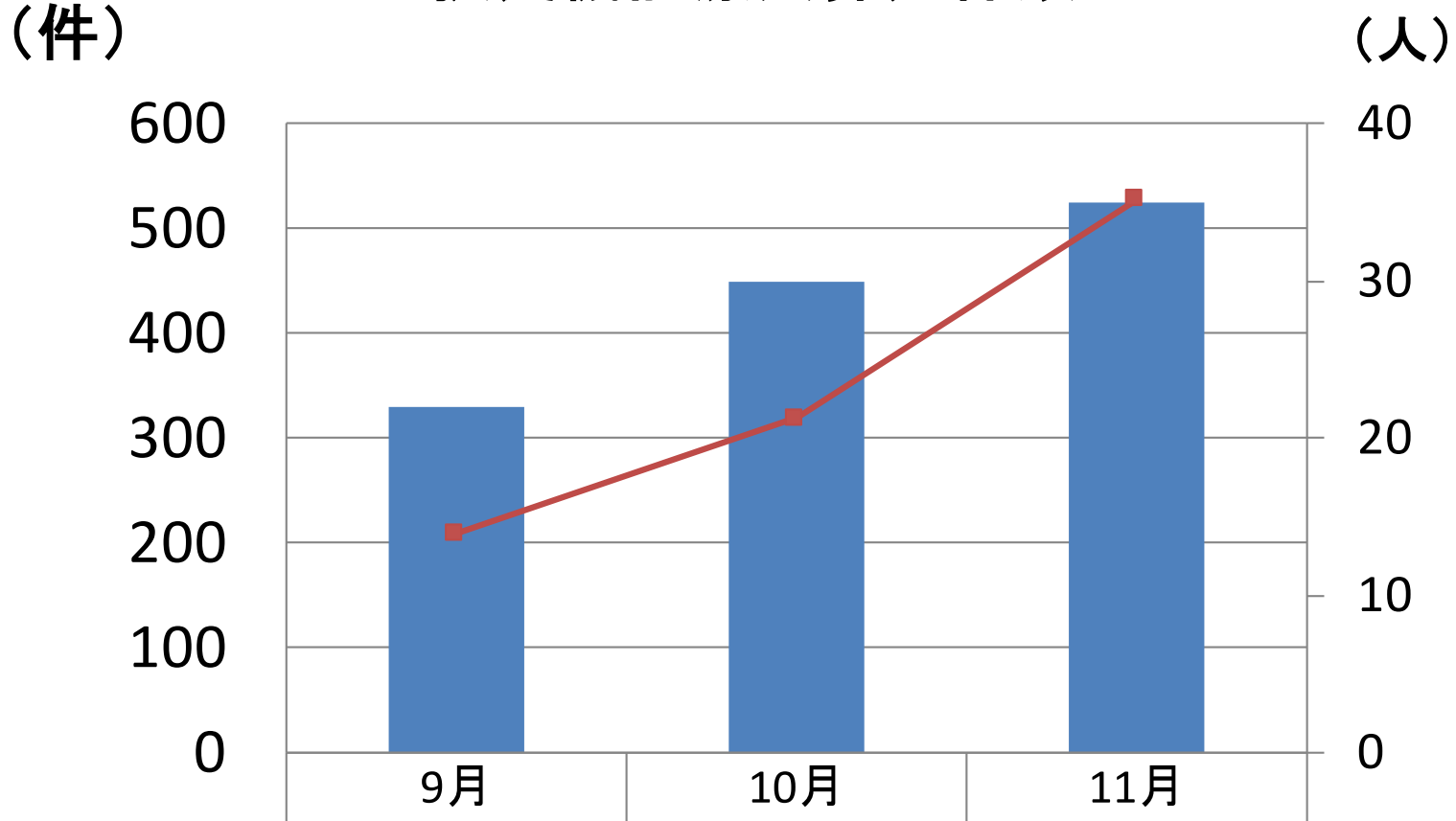
- 内視鏡下嚥下機能検査または嚥下造影によって他覚的に嚥下機能の低下が確認でき医学的に摂食機能療法の有効性が期待できるもの
- 摂食治療開始日から3ヶ月以内であれば1日につき算定できる。
- 摂食機能療法の実施に当たっては、計画立案、定期的な摂食機能検査・評価を行う
- 治療開始日及び毎回の訓練内容、開始時間、終了時間を**診療録**に記載する

摂食嚥下機能療法運用フローチャート



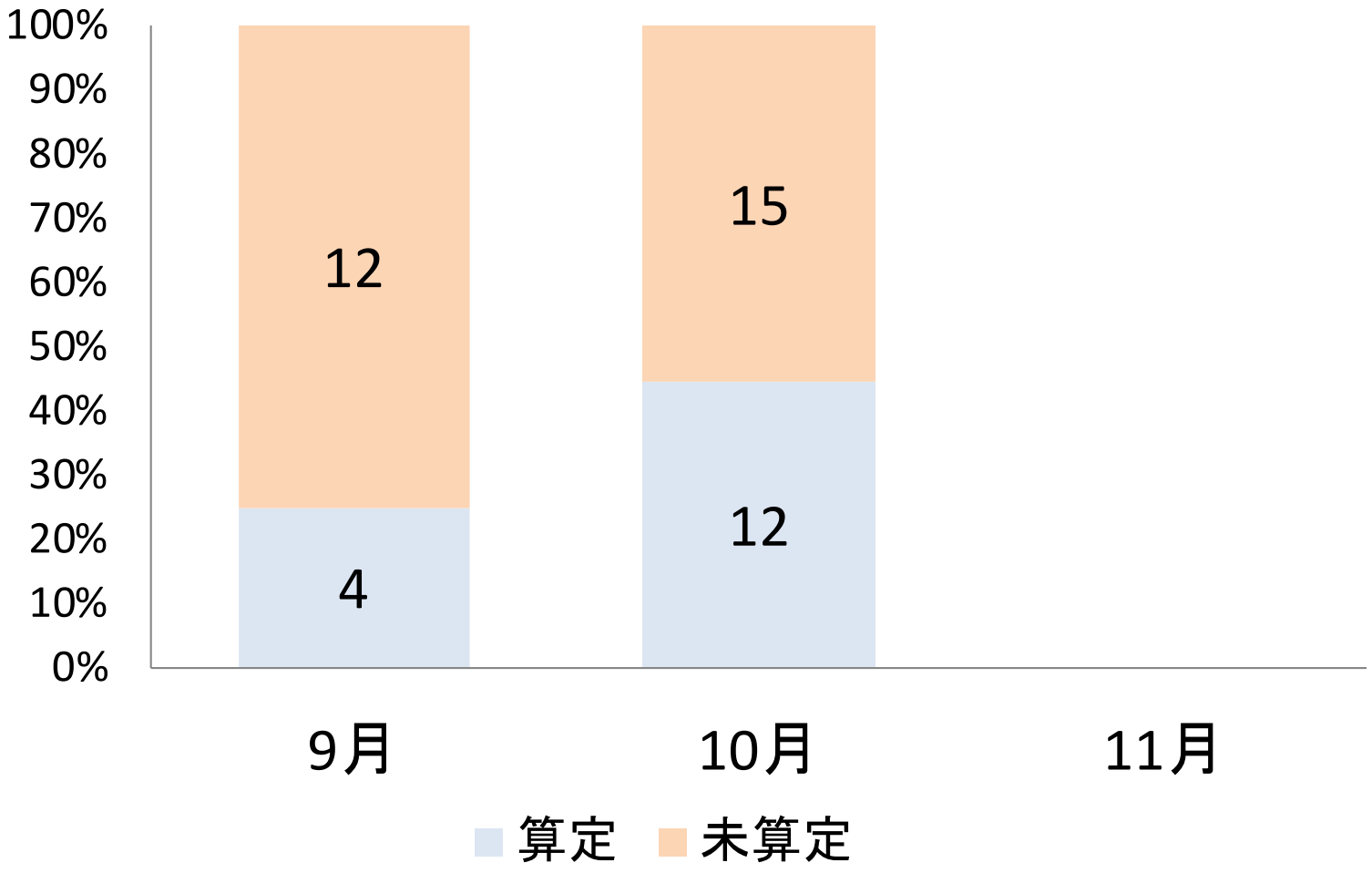
＊看護入力一覧とは NST 業務のタブの中にあるアイコンになります。
　パターンより摂食機能療法（病棟）を選択し一覧を参照してください。
＊看護入力一覧は NST 業務のタブがついていなければ参照できません。

摂食機能療法算定件数



	9月	10月	11月
件数（人）	22	30	35
算定のべ件数（件）	209	319	527

誤嚥性肺炎に対する摂食機能療法実施状況



課題

誤嚥性肺炎患者全員に摂食機能訓練実施

↓

医師の協力が不可欠

口腔ケアに関する知識・技術の向上

２ 医療の質の評価・公表等推進事業

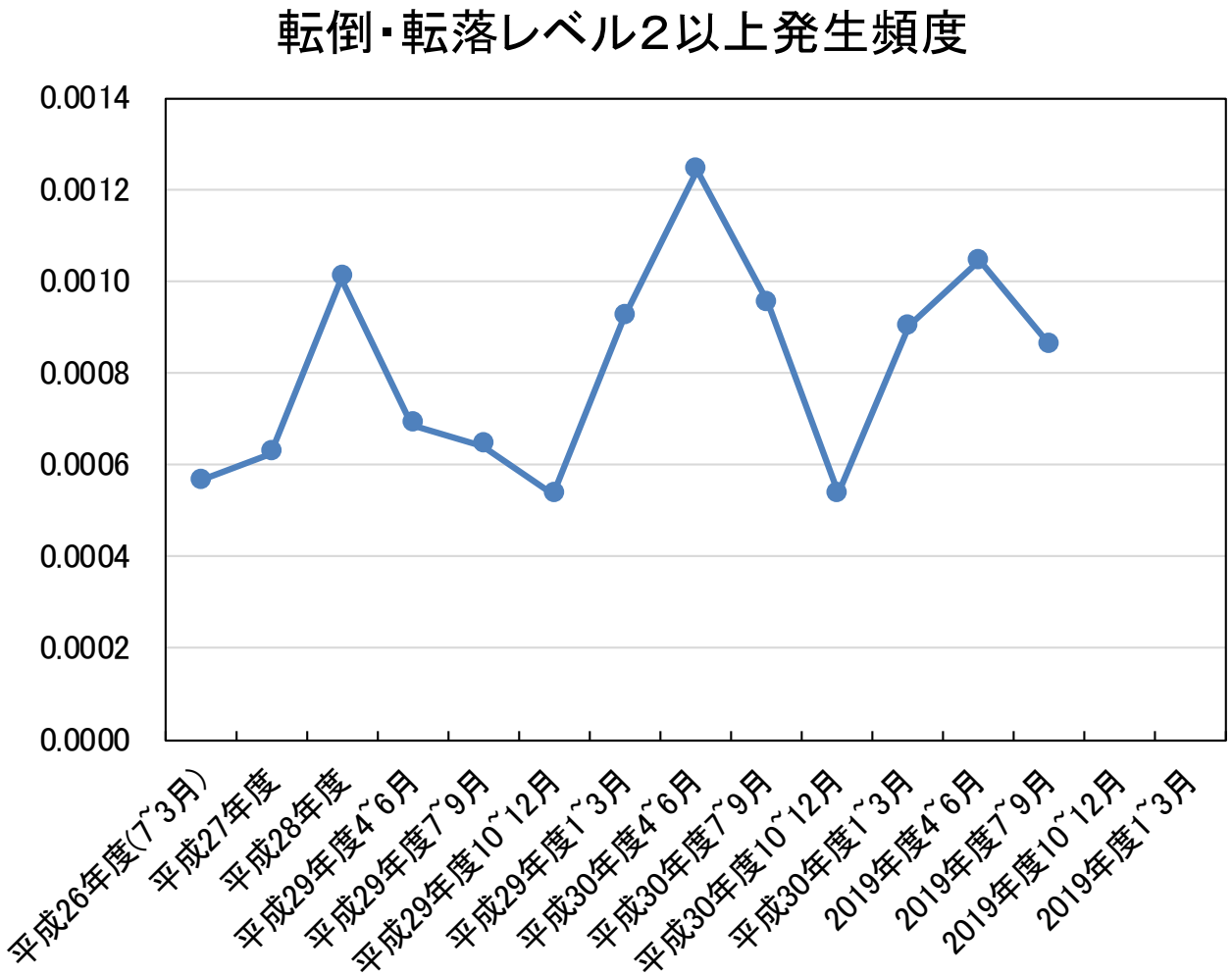
(全国自治体病院協議会)

- 以下の6項目に着目

No.	項目番号	指標名	院内担当
1	13	転倒・転落発生率	岡本 （医療安全対策室）
2	14	褥瘡推定発生率	堀井(看護局)
3	17	クリニカルパス使用率【患者数】	細川 (クリニカルパス委員会)
4	18	クリニカルパス使用率【日数】	
5	25	誤嚥性肺炎の摂食指導実施率	辻本(看護局)
6	32	糖尿病入院栄養指導実施率	山本(栄養管理科)

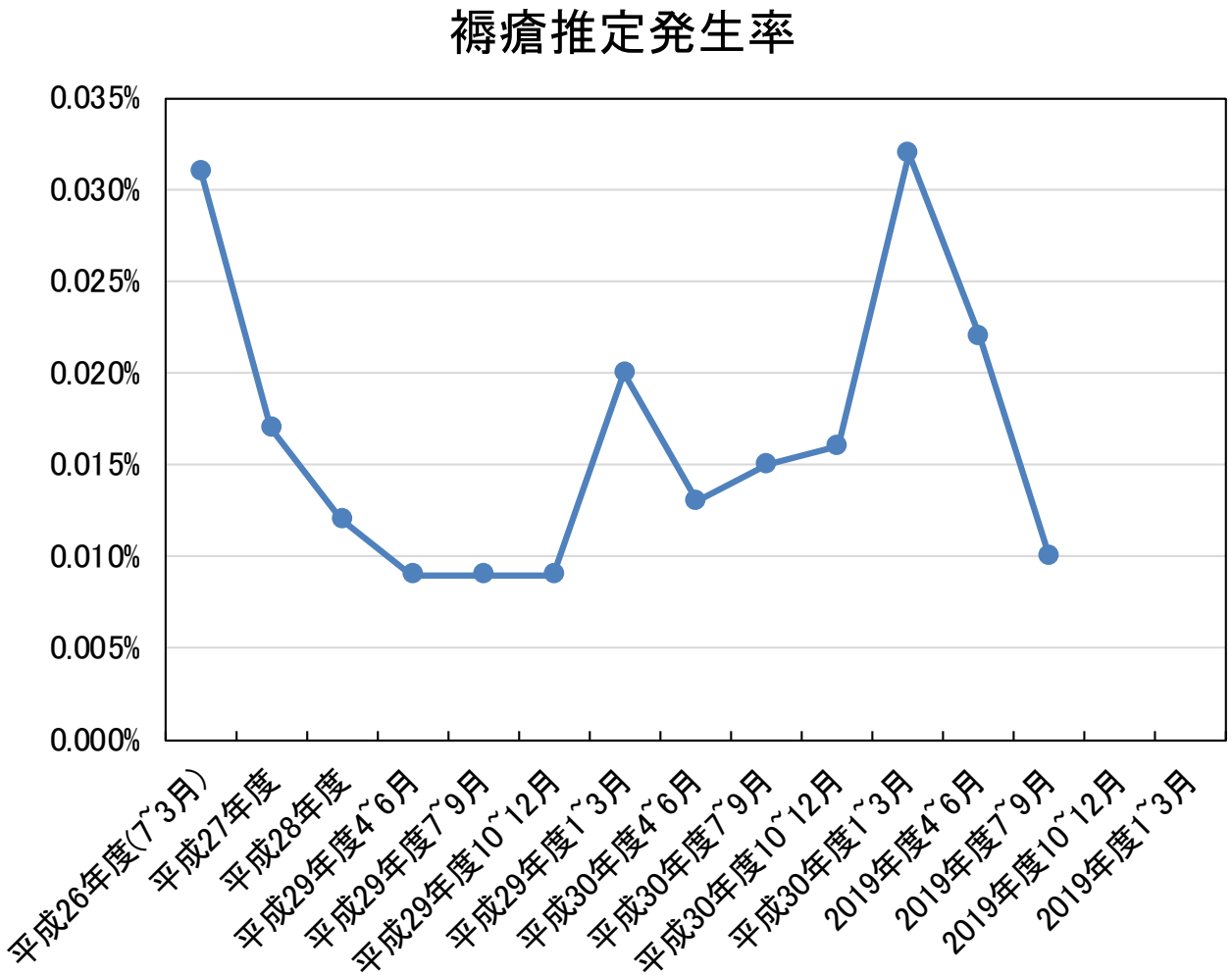
定義は後述

平成26年度からの推移



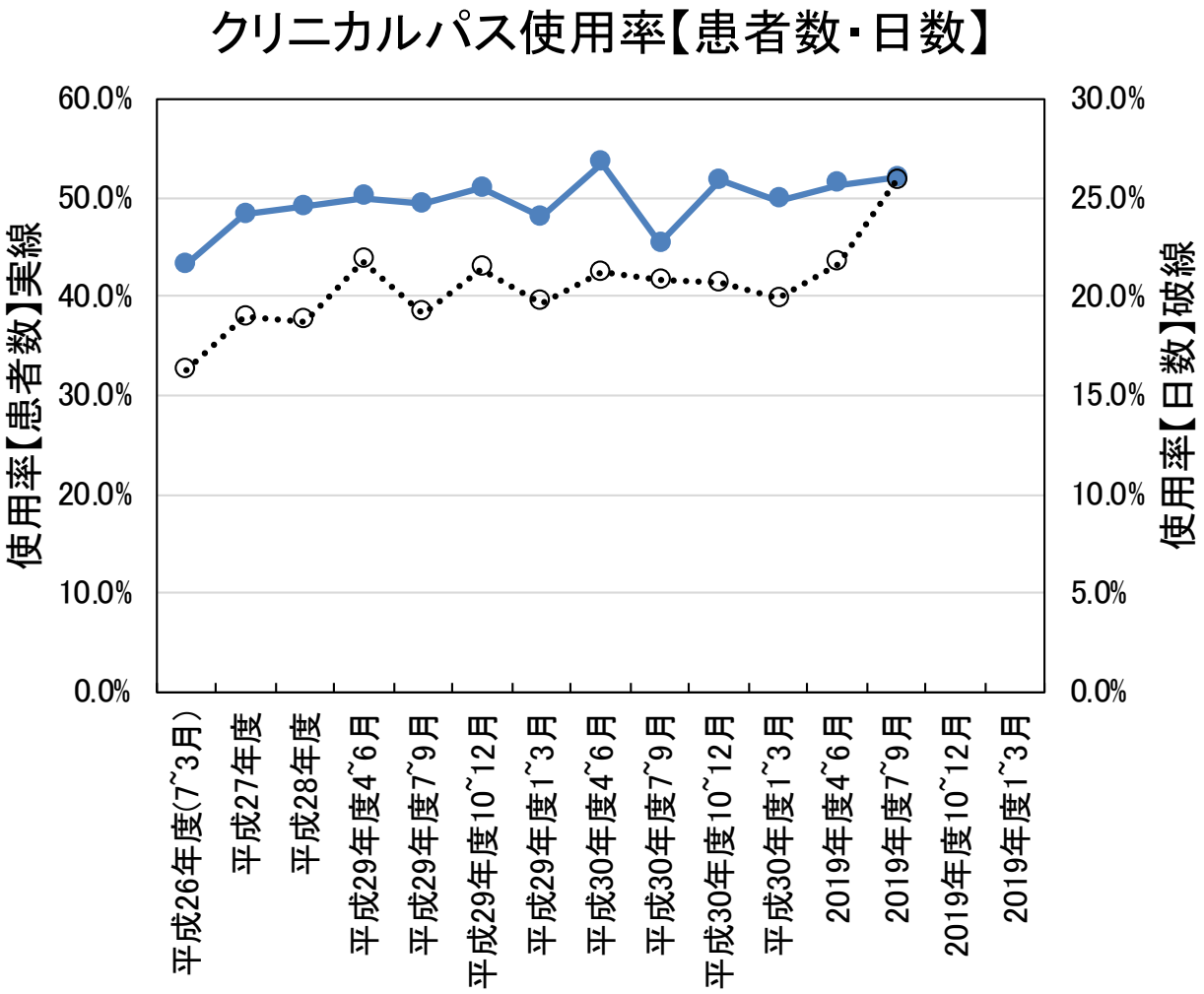
「医療の質」大会発表参照

平成26年度からの推移



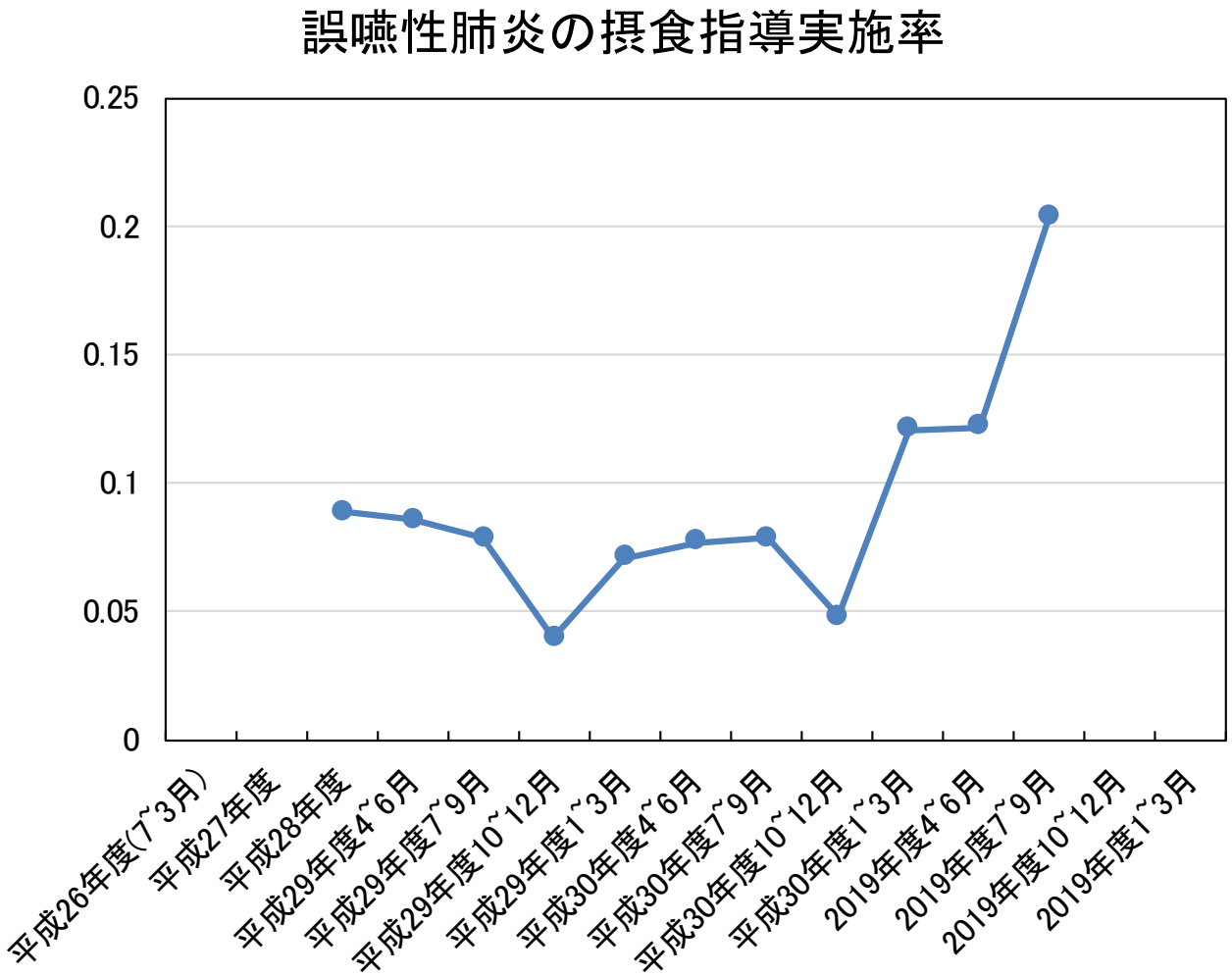
「医療の質」大会発表参照

平成26年度からの推移



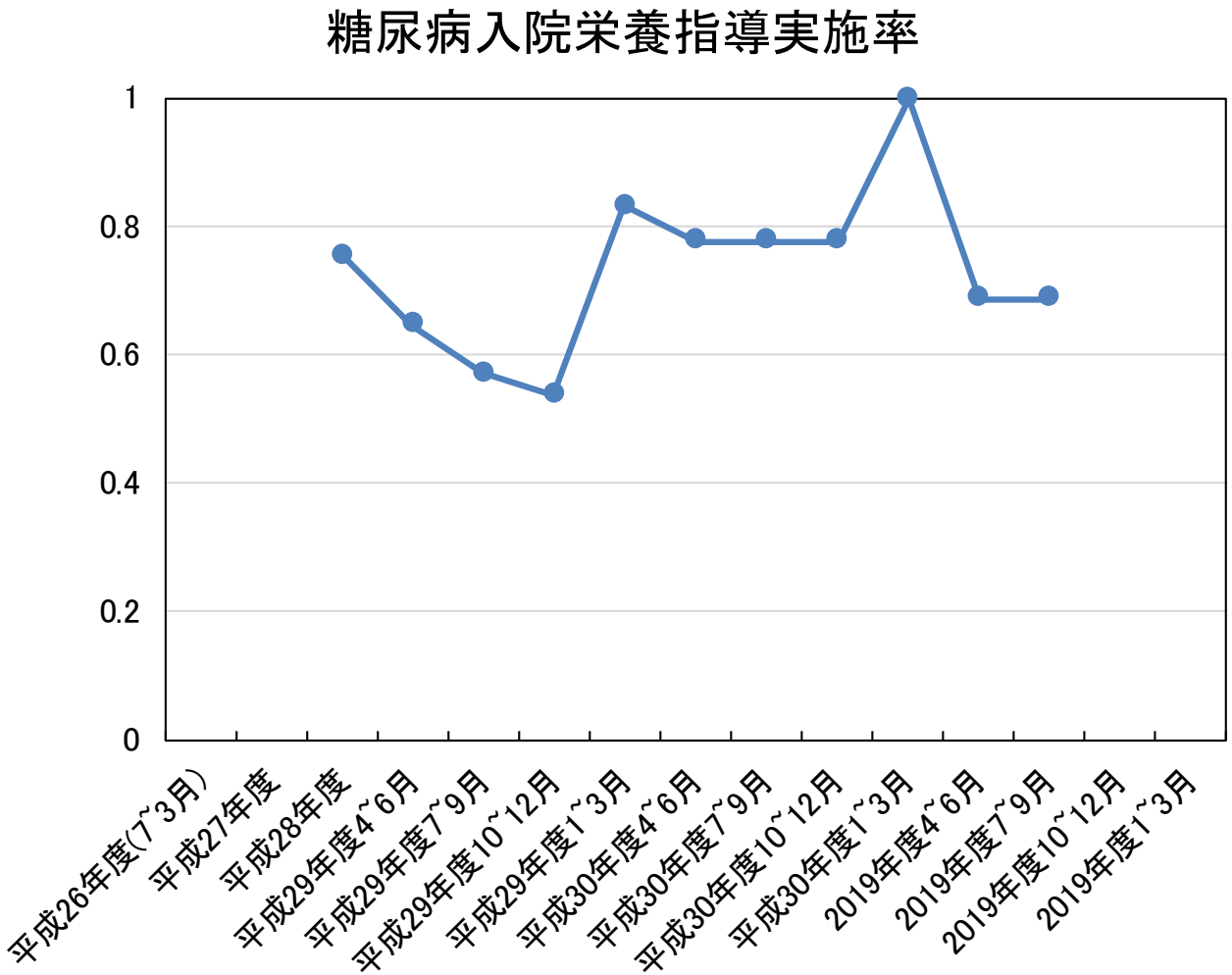
2019年度に入り、特に日数ベースの使用率が向上

平成26年度からの推移



「医療の質」大会発表参照

平成26年度からの推移



「医療の質」大会発表参照
特食が出ている患者が栄養指導の対象となる